2024 年度　学位記授与式 式辞

神戸松蔭女子学院大学

学長 徳山孝子

皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。本日ご列席いただきましたご家族の皆様に対しましても祝意をお伝えいたします。

今日は、神戸松蔭女子学院大学名で学位記授与式を開催する最後の式典になりました。歴史をさかのぼれば、本学院は、1892 年（明治 25 年）に「松蔭女学校」からはじまり、キリスト教の愛の精神に基づく教育方針を受け継ぎながら、1995 年（平成 7 年）に神戸松蔭女子学院大学へと名称変更を行いました。明治時代から 133 年間続いています。この 4 月からは、共学になり、大学名称を神戸松蔭大学へと変更します。分割できない一つの大学ですので、4 月からは、在校生も含めて全員が神戸松蔭大学の学生となります。皆さんは、神戸松蔭女子学院大学の名前で卒業する最後の学年となりました。皆さんにとっても大学にとっても歴史に残る卒業生になります。

皆さんの大学生活 4 年間のなかでは、新型コロナウイルス感染症に対応しながら過ごすことになってしまいました。最後の 2 年間は、徐々に制限がとかれ対面授業を中心としたキャンパスライフが過ごせたかと思います。遠隔授業には、Web 会議システムやネット上での資料閲覧、課題のやり取りなど、これからの社会生活で必要なスキルを身につけることができました。今は単に辛い経験であったとしか思えない方もおられることでしょう。学生時代に身に付いた経験

は、 これからの人生に役立つ財産となることもあります。その一つは変化に対応する能力です。

この 4 年間、私たちは平和な日常ということを常に考えざるを得ない状況に直面してきました。昨年１年を振り返ってみますと、元日の能登半島地震に始まり、夏以降には相次ぐ台風や豪雨被害が全国各地で頻発するなど、大きな自然災害の多い年でした。地球の気候変動が進行していることを改めて思い知らされた年でした。また世界では、戦争の年でもありました。イスラエルとパレスチナの紛争はすでに 2 年目に入りましたが、まだ停戦には至っていません。ウクライナへのロシアの侵攻に至っては、もうすぐ丸 3 年を迎えようとしています。今年は、阪神淡路大震災から 30 年、東日本大震災から 14 年が経ちました。これらの災害は、天災でもあり、同時に人災という面もありました。

哲学者の梅原猛さんは、環境破壊など数々の問題をかかえる現代文明は人間中心主義な考え方ではこの問題を解決できない。と言っています。

NHK 映像ファイル「あの人に会いたい」*2025* 年 *3* 月 *15* 日アンコール放送

自然と調和していく、自然と仲良くしていく、動物と仲良くする、そういう文明に変わらないと人類の文明の持続的発展はありえないと言っています。日本人は、災害を受けながらも、人々が助け合い、支えあう姿に希望を見出しました。今後の日本人のあるべき姿のように思います。

皆さんは、医療技術の進歩によって平均寿命が伸び人生 100 年時代と言われています。寿命が伸びるとライフスタイルが大きく変わることになります。寿命

が長くなれば、健康寿命が長くなるとともに労働寿命も長くなり、80 歳でも普通のように働いているようになります。一人ひとりの生き方が、今まで以上に多様化することにもなります。人はいかに生きるべきかを問うことになります。

皆さんへ伝えたい標語（スローガン）があります。

「思いやる心が人の輪を築く」（徳山作）

大学では、コミュニケーション力を高める学びが多くありました。他者の気持ちになってコミュニケーションをすることで、いつの間にか人の輪ができているという意味で作りました。大学モットーの”Open Yourself, Open Your Future”及び「キリスト教の愛の精神を基本とした教育を通じて、他者への思いやりの心をもって社会に貢献する」という教育理念にもつながります。他者への思いやる心が平和な社会を作ります。皆さんには、思いやる心をもって、謙虚な気持ちを忘れずに活躍していただきたいと願っています。

卒業後は、大学で学んだ知識や体験が一つでも多く生かされますよう祈るばかりです。が、さまざまな困難に遭遇することもあるかと思います。卒業後も今までと変わらず教職員が支援し、皆さんの成長を促し続けたいと考えています。これからは、皆さんのライフスタイルや時代に合った学びが必要になった時には、本大学のリカレント、リスキリング教育を活用していただきたいと思います。

このキャンパスで皆さんと再会し、ともに過ごした日々について語り合う時が来ることを、教職員一同楽しみにしています。

本日はまことにおめでとうございます。